



2018年度 年主題〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉

0・1・2歳児 3月主題 「だいすき」
月のねがい
◎大きくなったことを神さまに感謝する
◎友だちと一緒に、もの・こと・人に関わることを喜ぶ
◎春の自然に気付き、見つけることを楽しみ、ふれる
◎一人ひとりの成長を神さまに感謝する
◎大きくなったことを喜ぶ

3・4・5歳児 3月主題 「期待する」
月のねがい
◎イエス様が共に歩んでくださったことに感謝し、これからも共にいて下さることを信じ、安心と希望を持つ
◎友だちや保育者に信頼を寄せ、満足して過ごす
◎お互いの成長を喜び、新しい生活に期待を持つ



よい眠りと心の育ち・・・

桜の花が咲き始め、春の訪れを感じる今日この頃。めいろうこども園のお庭にも菜の花やシロツメクサが咲き、見つけては「お花きれーい！お母さんにお土産にする！」と、花を摘んで嬉しそうなお子どもたちです。見ていると心がほんわか温まります。

さて、先日子どもの睡眠についての研修に参加してきたので少し紹介します。子どもの睡眠には脳を作り、育て、守るという大事な働きがあります。眠りは神経細胞とシナプスのメンテナンス時間であり、見る、覚える、学ぶ、考える、決めるなどの認知機能を守る役割をしています。ただたくさん寝れば良い訳ではなく、よい眠りにはポイントが3つあります。

①眠る時間(夜の7時から朝の7時) ②眠りの持続時間(途中で起きることなく10時間程度の夜間の平均睡眠時間) ③眠りのリズム(入眠と起床時間が一定)この3つが揃って良い生活リズムであり、子どもは自分で体内時計を作れないため周りの大人が作ってあげなくてはなりません。太陽の光をたっぷり浴びて身体を動かし、夜は眠り、朝はスッキリと目覚める(朝は自ら起きてくるのが望ましい!)このリズムを整えてあげましょう。

3学期も残すところあとわずか。進級や進学が近づきそわそわしている子どもたちです。特に年長さんは小学校への期待でワクワクしている反面、不安もあり心がなかなか落ち着かない時期です。嬉しい気持ちはもちろん、不安な気持ちも温かく受け止めていけたら...と思います。子どもたちが大人になっても、「こども園楽しかったなー！思いっきり遊んだな...！」と思えるような、充実した園生活となるよう願っています。みんな、楽しい思い出いっぱい作ろうね。

大河



今月の聖句「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら3つです。」
I コリント13:13

歴史も健康も各人の生命も移ろいゆく中で、変わらないものがあります。それが冒頭の言葉です。「信仰」！何を信じる信仰でしょう。天地と人間をはじめすべての被造物を創造された神を信じるものです。私、池田は信仰に入るまでに徹底的に疑いました。疑って疑って疑い続けました。その結果到達したのが創造者である人類の父なる神を受け入れることでした。「希望」！四面楚歌、暗闇の中でなお人を支えるは希望です。自分の手中にあるものを人は望みません。手中に無いものであるからこそ望みます。「希望は練達を生み、練達は信仰を生む」と言われています。「愛」！「求める愛ではなく、与える愛」の事です。アガペーの愛、博愛です。「信」「望」「愛」は人生一生の課題です。「求める者は得、探す者は見出す」。の言葉があります。いつまでも残るものを求め続けましょう。

前理事長・牧師 池田公榮

3月の行事予定

7日(木)	お別れ会・給食バ・イソク
8日(金)	※ 弁当日 役員会 13:00
16日(土)	卒園式・父母の会決算総会(※午前保育)
19日(火)	修了式(1号:午前保育)
29(金) 30(土)	年度末休業日

4月の行事予定

9日(火)	始園式 新入園児登園
13日(土)	入園式・クラス会(親子で降園)
20日(土)	親子遠足(※弁当日)
23日(火)	4月生誕生会

退職のお知らせ
中村愛美保育教諭、鮫島真由美支援員が3月末日をもって退職致します。皆様にはこれまで大変お世話になりました。今までのご支援に心より感謝申し上げます。

星とたんぽぽ 金子みすゞ

青いお空のそこぶかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんで、
星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。

ちつとすげれたたんぽぽの、
かわらのすきにだまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬけれどもあるんだよ。



何となく不安定な天候が続いた二月でしたが、寒暖の差はあまり感じられませんでした。いよいよ一雨ごとに暖かみを増してくるでしょう。厳しい寒さの後は、春の光のありがたさを増して感じさせられます。お忙しい中での保育参観にお越しくださつて、まことにありがとうございます。

昨今メディア等で『不寛容』という言葉をよく目にします。意味は「心がせまく、人の言動を受け入れないこと。他の罪や欠点などを厳しく咎め立てすること。」とのこと。不祥事や失言などがインターネット上に挙がると、非難や批判が殺到し、收拾が付かなくなる、いわゆる「炎上」もその一つでしょうか。最近保育園などから聞こえてくる子どもたちの声も除夜の鐘も風鈴でさえも騒音として苦情が来るのか。光の届かない世知辛い世の中です。ただ、人の親となつたり、健康を害して初めて分かることというのものもあるでしょう。他者に対する寛容は、自分の経験や知識から得る精神の成長であると、実感できるような精進していききたいものです。

『ひかりのこども』あゆみなさい。子どもたちの「卒園の歌」の歌声が聞こえ始める、この聖句を卒園生に贈る聖書に書き込んでいきます。一人一人の顔を思い浮かべながら筆を運ぶこの時間、まさに至福の時です。全職員が人格を形成する大切な乳幼児期に、個々の育ちの過程にしっかりと寄り添えることができたのか。自己肯定感が育まれるような言葉掛けができたのか。発達に最も大切な「あそび」が自由に探求できる環境が整えられたのか。静かに内省する時でもあります。しかし、何よりも集団生活の中で、活動や行事を友だちと共に経験する機会をたくさん備えることができたことは感謝でした。聖書では光の反対の闇のことを「罪」と呼んでいます。法や倫理に反する「犯罪」としての罪ではなく、生まれながらに持っている憎しみ、猜疑心、ねたみ、攻撃心等です。神に背を向けて生きることを。神の意志に逆らって生きることを。自分中心に生きることも言えます。過激化する他者への攻撃や誹謗中傷を知ると、人間は目に見える世界というよりも、魂の中の闇と言えらる。闇は目に見える世界として変えてくださるのです。光は愛と希望に生きるものとして、光の源であるイエス・キリストによって、愛と希望に生きるものとして、希望を与え、愛の心を育ててくれます。温かく私たちに照らし、希望を与え、愛の心を育ててくれます。私たちが、すべての園児たちがキリストの光に照らされ、「神様の子ども」として成長するようにと祈りつつ保育を行ってきました。多様化する時代にあっても、一番大切なものは、いつも目に見えないのだということをお忘れず願っています。心優しいひかりの子として歩むことが出来ますように祈って協力をお願いします。誠にありがとうございました。多くの足らざることをお詫言し、心より感謝申し上げます。

園長

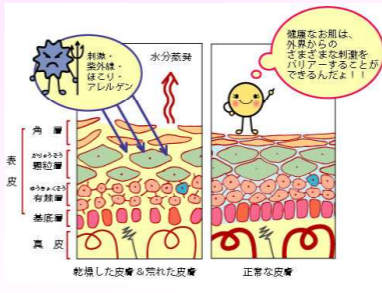
「乳幼児のスキンケアについて」

桃の節句を迎え、桜も咲き始めました。これから種々の花々が種子島中に咲き誇る美しい季節になります。一方「花粉」や「紫外線」の量が増え始める時期でもあり、UVケアは3月から、と言われます。そこで、今回は乳幼児のお肌ケアについてご紹介したいと思います。

私たちの身体を包んでいる皮膚は、綿密な免疫システムを備えた「臓器」です。例えば、身体の水蒸気の蒸発を防いだり、異物の侵入や紫外線など外的環境から身体を守るなどの重要な機能です。乳幼児のお肌は見た目きれいでも、肌ざわりもふっくら。そんな肌を見ると「スキンケアなんて必要なのでは？」と思ってしまうかもしれません。でも、実はとってもデリケートなんです。

肌が潤いを損なうと、バリア機能が低下して、外からさまざまな物質が侵入しやすくなります。食べこぼした食品、花粉、ハウスダストに含まれるダニの破片などがアレルギーの原因になる可能性もあります。皮膚トラブルによって痒みなどの不快感から不機嫌になったり、ぐずりがちになることも少なくありません。

また紫外線の影響は、日焼けによる皮膚の炎症だけでなく、



免疫力の低下など健康へのダメージも大きいといえます。デリケートなお子どもたちのお肌をケアすることによって乾燥を防ぎ、肌あれを抑制し、細菌やウイルス・紫外線などが身体に侵入するのを防ぎましょう。

スキンケアには①洗浄＝肌を清潔に保ち②保湿＝うるおいを与え③紫外線防御＝紫外線のダメージからからだを守る、の3つの役割があります。この3つのポイントをしっかりとおさえたら、効果的なスキンケアができます。

洗浄は優しく洗い、丁寧にすすぎましょう。保湿はベビー用のミルクローションなどを入浴後と起床時の1日2回、全身にぬっていきます(ひざの裏、腋下などのくびれた部分にもぬり忘れないように)しっかりとすくくいが目安です。

紫外線防御は外出時に帽子を忘れず、お肌の露出は控えめに。必要な時は乳幼児用のUVクリームを塗り、入浴時に綺麗に洗い流します。

肌に痒さによるひっかき傷やあかぎれなどがある場合は受診をおすすめします。お子さんの肌に合ったローション等を処方してもらえます。

毎日スキンケアを続けるのは大変かもしれませんが、でも、スキンケアをすることは子どもの肌とお母さんの肌が触れ合う貴重な時間にもなります。子どもにやさしく話しかけてスキンシップをはかりながら、楽しくスキンケアしましょう。もちろん、お母さん自身のお肌ケアも大切です。

木口屋